

# ムラサキケマン

四国中央市立三島西中学校 1年生 学年だより R2, 3, 11 (水)

発行者 - 内田賢雄

## 【1年生のみなさんへ】

休校開始から、1週間が経過しました。今後の学校再開については、まだ見通しがたっておらず現状は変わりません。休校中の過ごし方にも、そろそろ行き詰まりを感じている人もいるかもしれません。あるいは、自分なりの日常生活が軌道に乗り、こんな時だからこそ、じっくりと時間をかけた取組をしている人もいることでしょう。休校に入る前日に申し上げたように、「正しく」を絶対に揺らがない軸として、今の生活を送って下さい。感染症対策には万全を期したうえで、今の自分ができる、やりたい、やってみたい、やるべき、やったほうがいい、やらなければならない等の後ろには、必ず「正しさ」が備わっているのかです。市内一斉休校になる前日、既に休校になった中・高校生が昼間から、カラオケボックスに出入りしているニュースが報じられました。どこに正しさを欠いているのか分かりますよね。

そして、今日は、3月11日を迎えました。1月17日のムラサキケマンでは、阪神淡路大震災は、この国で生きる”心構え”を問いかけたのだ、と書きました。では、3月11日を我々はどのように教訓とするのでしょうか。

ここから先は、ある人の言葉を使わせてもらいます。

それは、”覚悟”です。この国で生きる3つの覚悟を決めなさい、これが3月11日からのメッセージです。

まず1に、**科学の力を過信しない**、ということです。想定を超えた津波が押し寄せたことが全てを示しています。自然の猛威の力の前には、科学の力などいかに無力であるか。科学的に証明されることが全てである、などというのは単に人間のおごり高ぶった考えです。自然というものに敬意を表さない、謙虚さを忘れた科学の進歩は、結果、人類の繁栄とは真逆の道を歩むことになるのではないのでしょうか。

次は、**物質的な豊かさのみを求めない**、です。これは地震により発生した原発事故からです。原発の危険性は以前から叫ばれていました。東日本大震災による原発事故で、ぐっと唇を噛んだのは、原発反対の活動を続けていた人たちでした。「もっともっと反対の声をあげるべきだった」と。なぜ、原子力発電が必要なのでしょうか。人々が何を求めているのかと大きく関係しています。物が豊かで、快適で、便利で、華やかで、煌びやかで、最先端のテクノロジーを身にまとうライフスタイルと、電力は切っても切り離せません。原子力発電に依存している生活とは今すぐ決別し、限られたエネルギーの中で生活できるライフスタイルを確立することが必要です。そのためには、我々の価値観も変えるべきです。キラキラと電力で彩られた夜景に美しさを感じるのではなく、違うものに美を感じましょう。質素で慎ましく生活することへの抵抗感を取り払うのです。

そして最後は、**丸裸の自分はどうか**、ということです。自分一人でポツンと立たされた時に、「お前はいったい何ができるのか」ここから逃げない覚悟です。一人ぼっちで立っているのは、大都会なのか、山のとっぺんか、太平洋上のど真ん中か、異国の地なのか、建物が崩壊したがれきの町並みの中なのか、それは分かりません。一人孤独な現状を泣き叫ぶだけでは事態は変わりません。現状を打破するたった一人での突破力が必要です。他人をあてにすることのみ、指示を待つだけ、自分に不利益なことは全て人や物の責任、失敗の次には言い訳ばかり・・・これらは甘えに他なりません。

奇しくも、みなさんが今置かれている状況は、ある種の困難な状況です。そんな中で迎える3月11日です。考える時間はたくさんあるはず。「正しさ」を頼りに、この現在（いま）を生きていきましょう。